

平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）交付規程

平成29年4月17日 温審協A第170417001号  
一般社団法人 温室効果ガス審査協会 制定

（通則）

第1条 二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）の交付については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号。以下「適正化法」という。）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号。以下「適正化法施行令」という。）、その他の法令、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）交付要綱（平成26年4月1日付け環地温発第1404017号。以下「交付要綱」という。）及び先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業実施要領（平成26年4月1日付け環地温発第1404018号。以下「実施要領」という。）の規定（以下「法令等」という。）によるほか、この規程の定めるところによる。

（交付の目的）

第2条 この規程は、実施要領の規定に基づき、一般社団法人温室効果ガス審査協会（以下「協会」という。）が行う間接補助金（以下「補助金」という。）を交付する事業の手續等を定め、もってその業務の適正かつ確実な実施を図り、交付要綱第2条の目的の達成に資することを目的とする。

（交付の対象）

- 第3条 協会は、前条の目的を達成するため、実施要領第3の（1）に規定する事業（以下「補助事業」という。）に要する経費のうち、補助金の交付の対象として別表第1の第2欄において協会が認める経費（以下「補助対象経費」という。）について、環境大臣（以下「大臣」という。）からの交付の決定額の範囲内において、補助金を交付するものとする。
- 2 前項の補助事業に係る補助金の交付を申請できる者は、別紙1の2に規定する者とする。
  - 3 第1項に規定する補助事業を2者以上の事業者が共同で実施する場合には、共同で申請するものとし、その代表者を補助金の交付の対象者とする。なお、代表者は、補助事業を自ら行い、かつ、当該補助事業により財産を取得する場合はその財産を取得する者に限る。また、この場合において、代表者を代表事業者、それ以外の事業者を共同事業者という。
  - 4 他の法令及び予算に基づく補助金等の交付を受けて行われる事業については、交付の対象としない。
  - 5 補助事業の実施に関する要件その他の必要な事項は、別紙1に定めるとおりと

する。

(交付額の算定方法)

第4条 この補助金の交付額は、次に掲げる方法により算出するものとする。

- 一 総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額を算出する。
  - 二 別表第1の第2欄に掲げる補助対象経費と第3欄に掲げる基準額とを比較して少ない方の額を選定する。
  - 三 一により算出された額と二で選定された額とを比較して少ない方の額に、別表第1の第4欄に掲げる補助率を乗じて得た額を交付額とする。ただし、算出された額に1,000円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。
- 2 交付額の算出に当たっては、当該補助金に係る消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額（補助対象経費に含まれる消費税及び地方消費税相当額のうち、消費税法（昭和63年法律第108号）の規定により仕入れに係る消費税額として控除できる部分の金額及び当該金額に地方税法（昭和25年法律第226号）の規定による地方消費税の税率を乗じて得た金額の合計額に補助率を乗じて得た金額をいう。以下「消費税等仕入控除税額」という。）を減額して算出しなければならない。ただし、算出時において消費税等仕入控除税額が明らかでないものについては、この限りでない。

(交付の申請)

第5条 補助金の交付を受けようとする者（共同で申請する場合は代表事業者を指す。以下「申請者」という。）は、様式第1による交付申請書を協会に提出しなければならない。

(変更交付申請)

第6条 補助金の交付の決定を受けた者（以下「補助事業者」という。）は、補助金の交付決定後の事情の変更により申請の内容を変更して補助金の額の変更申請を行う場合には、速やかに様式第2による変更交付申請書を協会に提出しなければならない。

(交付の決定)

第7条 協会は、第5条の規定による交付申請書又は前条の規定による変更交付申請書の提出があった場合には、当該申請書の内容を審査し、補助金を交付すべきもの又は交付の決定の内容を変更すべきものと認めたときは、交付決定又は変更交付決定を行い、様式第3による交付決定通知書又は様式第4による変更交付決定通知書を申請者に送付するものとする。

- 2 第5条の規定による交付申請書又は前条の規定による変更交付申請書が到達してから、当該申請に係る前項による交付の決定を行うまでに通常要すべき標準的な期間は、30日とする。
- 3 協会は、第4条第2項ただし書による交付額の算定により交付の申請がなされたもの

については、補助金に係る消費税等仕入控除税額について、補助金の額の確定又は消費税及び地方消費税の申告後において精算減額又は返還を行うこととする旨の条件を付して交付の決定を行うものとする。

(交付の条件)

第8条 補助金の交付の決定には、次の条件が付されるものとする。

- 一 補助事業の一部を第三者に委託し、又は第三者と共同して実施する場合は、実施に関する契約を締結し、協会に届け出なければならない。
- 二 補助事業を遂行するため、売買、請負その他の契約をする場合は、一般の競争に付さなければならない。ただし、補助事業の運営上、一般の競争に付することが困難又は不相当である場合は、指名競争に付し、又は随意契約によることができる。
- 三 次に掲げる事項に該当する場合は、あらかじめ様式第5による計画変更承認申請書を協会に提出し、その承認を受けなければならない。なお、補助金の額に変更を伴う場合は、第6条に定める手続によるものとする。
  - ア 別表第2の第1欄に示す補助事業に要する経費の配分を変更しようとするとき。ただし、各配分額のいずれか低い額の15パーセント以内の変更を除く。
  - イ 補助事業の内容を変更しようとするとき。ただし、補助目的及び事業能率に関係がない事業計画の細部の変更である場合を除く。
- 四 補助事業の全部若しくは一部を中止し、又は廃止しようとする場合は、様式第6による中止（廃止）承認申請書を協会に提出して承認を受けなければならない。なお、補助事業の全部を中止（廃止）した場合は、協会は承認の際に、補助事業を円滑に進める観点から、翌年度に実施される本補助金に採択されないことがある旨の条件を付すことができる。ただし、辞退理由が他の補助金採択による場合若しくは天災による場合等、協会が認めた場合はこの限りではない。
- 五 補助事業が予定の期間内に完了しないと見込まれる場合又は補助事業の遂行が困難となった場合には、速やかに様式第7による遅延報告書を協会に提出して、その指示を受けなければならない。ただし、変更後の完了予定期日が当初の完了予定期日の属する年度を超えない場合で、かつ、当初の完了予定期日後2ヶ月以内である場合はこの限りでない。
- 六 補助事業の遂行及び収支の状況について、協会の要求があったときは速やかに様式第8による遂行状況報告書を協会に提出しなければならない。
- 七 補助金の額の確定が行われるまでの間及び補助事業により取得し又は効用の増加した価格が単価50万円以上の機器及び器具、並びにその他大臣が定める財産が、減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年大蔵省令第15号）で定める期間を経過するまでの間において、合併・分割等により補助事業者の名称、住所又は連絡先の変更が生じたとき（事務代行者がいる場合はその名称、住所又は連絡先の変更が生じた場合も含む）は、遅滞なく協会に報告

しなければならない。

- 八 補助事業の経費については、帳簿及び全ての証拠書類を備え、他の経理と明確に区分して経理し、常にその収支の状況を明らかにしておくとともに、これらの帳簿及び証拠書類を補助事業の完了（中止又は廃止の承認を受けた場合を含む。）の日の属する年度の終了後5年間、協会の要求があったときは、いつでも閲覧に供せるよう保存しておかなければならない。
- 九 協会は、補助事業の適正かつ円滑な実施を確保するために必要があると認めるときは、補助事業者に対して、補助事業の経理について調査し、若しくは指導し、又は報告を求めることができる。
- 十 補助事業完了後に、消費税及び地方消費税の申告により補助金に係る消費税等仕入控除税額が確定した場合には、様式第9による消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額報告書により速やかに協会に報告しなければならない。ただし、当該消費税等仕入控除税額を減額して実績報告を行った場合には、この限りでない。
- 十一 協会は、前号報告があった場合には、当該消費税等仕入控除税額の全部又は一部の返還を命ずるものとする。当該返還の期限は、その命令のなされた日から20日以内とし、期限内に納付がない場合は、未納に係る金額に対して、その未納に係る日数に応じて年利10.95パーセントの割合で計算した延滞金を徴するものとする。
- 十二 補助事業者は、補助事業により取得し、又は効用の増加した財産（以下「取得財産等」という。）については、様式第10による取得財産等管理台帳を備え、当該取得財産に先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業で取得した財産である旨を明示するとともに、補助事業の完了後においても、善良な管理者の注意をもって管理し、補助金の交付の目的に従って、その効率的運用を図らなければならない。
- 十三 補助事業者は、取得財産等のうち、不動産、船舶、航空機、浮標、浮き橋及び浮ドック並びにこれらの従物、並びに補助事業により取得し又は効用の増加した価格が単価50万円以上の機械及び器具、並びにその他大臣が定める財産については、減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年大蔵省令第15号）で定める期間を経過するまで、協会の承認を受けずに、補助金の交付の目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、担保に供し、又は取壊し（廃棄を含む。）を行ってはならない。なお、財産処分に係る承認申請、承認条件その他必要な事務手続については、「環境省所管の補助金等で取得した財産の処分承認基準について」（平成20年5月15日付環境会発第080515002号大臣官房会計課長通知。以下「財産処分承認基準」という。）に準じて行うものとする。また、財産処分承認基準第4に定める財産処分納付金について、協会が定める期限内に納付がない場合は、未納に係る金額に対して、その未納に係る日数に応じて年利5パーセントの割合で計算した延滞金を徴するものとする。

(申請の取下げ)

第9条 申請者は、第7条第1項の交付の決定の通知を受けた場合において、交付の決定の内容又はこれに付された条件に対して不服があり、申請を取り下げようとするときは、当該通知を受けた日から起算して15日以内に書面をもって協会に交付申請の取下げを申し出なければならない。

(補助事業の遂行の命令等)

第10条 協会は、第8条第六号の規定による報告書に基づき、補助事業が法令等、本規程、交付の決定の内容又はこれに付した条件に従って遂行されていないと認められるときは、補助事業者に対し、これらに従って補助事業を遂行すべきことを指導することができる。

2 大臣は、補助金交付及び補助事業の適正を期するため必要があるときは、補助事業者に対して報告を求め、又はその職員に補助事業者の事業場に立ち入り、帳簿書類その他の物件を検査させ、若しくは関係者に質問させることができるものとする。

(実績報告書)

第11条 補助事業者は、補助事業が完了（中止又は廃止の承認を受けた場合を含む。）したときは、その日から起算して30日を経過した日又は補助事業の完了した日の属する年度の3月10日のいずれか早い日までに様式第11による完了実績報告書を協会に提出しなければならない。

2 補助事業の実施期間内において、国の会計年度（毎年4月1日から翌年の3月31日までの期間）が終了したときは、翌年度4月10日までに様式第12による年度終了実績報告書を協会に提出しなければならない。

3 補助事業者は、第1項又は第2項の実績報告を行うに当たって、第4条第2項ただし書の規定により交付額を算出した場合において、補助金に係る消費税等仕入控除税額が明らかな場合には、当該消費税等仕入控除税額を減額して報告しなければならない。

(補助金の額の確定等)

第12条 協会は、前条第1項の報告を受けた場合には、報告書等の書類の審査及び必要に応じて現地調査等を行い、その報告に係る補助事業の実施結果が補助金の交付の決定の内容（第8条第三号に基づく承認をした場合は、その承認された内容を含む。）及びこれに付した条件に適合すると認めたときは、交付すべき補助金の額を確定して、様式第13による交付額確定通知書により補助事業者に通知するものとする。

2 協会は、補助事業者に交付すべき補助金の額を確定した場合において、既にその額を超える補助金が交付されているときは、その超える部分の補助金の返還を命ずるものとする。

3 前項の補助金の返還期限は、その命令のなされた日から20日以内とし、期限内に納付がない場合には、未納に係る金額に対して、その未納に係る日数に応じて年利10.95パーセントの割合で計算した延滞金を徴するものとする。

(補助金の支払)

第13条 補助金は、前条第1項の規定により交付すべき補助金の額を確定した後に支払うものとする。

2 補助事業者は、前項の規定により補助金の支払を受けようとするときは、様式第14による精算払請求書を協会に提出しなければならない。

(交付決定の解除等)

第14条 協会は、第8条第四号による補助事業の全部若しくは一部の中止若しくは廃止の申請があった場合又は次の各号のいずれかに該当する場合には、第7条第1項の交付の決定の全部又は一部を解除することができる。ただし、第四号の場合において、補助事業のうちすでに経過した期間に係る部分については、この限りではない。

一 補助事業者が、法令等若しくは本規程に基づく協会の指示等に従わない場合

二 補助事業者が、補助金を補助事業以外の用途に使用した場合

三 補助事業者が、補助事業に関して不正、怠慢、その他不適当な行為をした場合

四 天災地変その他補助金の交付の決定後に生じた事情の変更により、補助事業の全部又は一部を継続する必要がなくなった場合その他の理由により補助事業を遂行することができない場合（補助事業者の責に帰すべき事情による場合を除く。）

2 協会は、前項の解除を行った場合は、既に当該解除に係る部分に関し補助金が交付されているときは、期限を付して当該補助金の返還を命ずるものとする。

3 前項に基づく補助金の返還については、第12条第3項の規定を準用する。

(秘密の保持)

第15条 協会は、申請者及び補助事業者がこの規程に従って協会に提出する各種申請書類及び経理等の証拠書類等については、補助金の交付のための審査及び補助金の額の確定のための検査等、補助事業の遂行に関する一切の処理等を行う範囲でのみ使用するとともに、善良な管理者の注意をもって適切に管理するものとする。

(その他)

第16条 この規程に定めるもののほか、補助金の交付に関するその他必要な事項は、協会が別に定める。

附 則

この規程は、平成29年4月17日から施行する。

別表第1

1. 補助事業	2. 補助対象経費	3. 基準額	4. 補助率
先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業	補助事業を行うために必要な工事費（本工事費、付帯工事費、機械器具費、測量及試験費）、設備費、及び事務費であって別表第2に掲げる経費並びにその他必要な経費で協会が承認した経費	協会が必要と認めた額	ア L2-Tech 認証製品導入に必要な経費 2分の1  イ その他機器導入に必要な経費 3分の1

別表第2

1 区分	2 費目	3 細分	4 内 容
工事費	本工事費	(直接工事費) 材料費  労務費  直接経費  (間接工事費) 共通仮設費  現場管理費	<p>事業を行うために直接必要な材料の購入費をいい、これに要する運搬費、保管料を含むものとする。この材料単価は、建設物価（建設物価調査会編）、積算資料（経済調査会編）等を参考のうえ、事業の実施の時期、地域の実態及び他事業との関連を考慮して事業実施可能な単価とし、根拠となる資料を添付すること。</p> <p>本工事に直接必要な労務者に対する賃金等の人件費をいう。この労務単価は、毎年度農林水産、国土交通の2省が協議して決定した「公共工事設計労務単価表」を準用し、事業の実施の時期、地域の実態及び他事業との関連を考慮して事業実施可能な単価とし、根拠となる資料を添付すること。</p> <p>事業を行うために直接必要とする経費であり、次の費用をいう。            ①水道、光熱、電力料（事業を行うために必要な電力電灯使用料及び用水使用料）            ②機械経費（事業を行うために必要な機械の使用に要する経費（材料費、労務費を除く。））            ③特許権使用料（契約に基づき使用する特許の使用料及び派出する技術者等に要する費用）</p> <p>次の費用をいう。            ①事業を行うために直接必要な機械器具等の運搬、移動に要する費用            ②準備、後片付け整地等に要する費用            ③機械の設置撤去及び仮道布設現道補修等に要する費用            ④技術管理に要する費用            ⑤交通の管理、安全施設に要する費用</p> <p>請負業者が事業を行うために直接必要な現場経費であって、労務管理費、水道光熱費、消耗品費、通信交通費その他に要する費用をいい、類似の事業</p>



設備費	付帯工事費	一般管理費	を参考に決定する。  請負業者が事業を行うために直接必要な法定福利費、修繕維持費、事務用品費、通信交通費をいい、類似の事業を参考に決定する。  本工事費に付随する直接必要な工事に要する必要最小限度の範囲で、経費の算定方法は本工事費に準じて算定すること。											
	機械器具費		事業を行うために直接必要な建築用、小運搬用その他工事用機械器具の購入、借料、運搬、据付け、撤去、修繕及び製作に要する経費をいう。											
	測量及試験費		事業を行うために直接必要な調査、測量、基本設計、実施設計、工事監理及び試験に要する経費をいう。また、補助事業者が直接、調査、測量、基本設計、実施設計、工事監理及び試験を行う場合においてこれに要する材料費、労務費、労務者保険料等の費用をいい、請負又は委託により調査、測量、基本設計、実施設計、工事監理及び試験を施工する場合においては請負費又は委託料の費用をいう。											
	設備費		事業を行うために直接必要な設備及び機器の購入並びに購入物の運搬、調整、据付け等に要する費用をいう。											
	事務費		事業を行うために直接必要な事務に要する共済費、賃金、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料及賃借料、消耗品費及び備品購入費をいい、内容については別表第3に定めるものとする。  事務費は、工事費、設備費及び業務費の金額に対して、次の表の区分毎に定められた率を乗じて得られた額の範囲内とする。											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>号</th> <th>区 分</th> <th>率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5, 000万円以下の金額に対して</td> <td>6. 5%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>5, 000万円を超え1億円以下の金額に対して</td> <td>5. 5%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1億円を超える金額に対して</td> <td>4. 5%</td> </tr> </tbody> </table>			号	区 分	率	1	5, 000万円以下の金額に対して	6. 5%	2	5, 000万円を超え1億円以下の金額に対して	5. 5%	3	1億円を超える金額に対して	4. 5%
号	区 分	率												
1	5, 000万円以下の金額に対して	6. 5%												
2	5, 000万円を超え1億円以下の金額に対して	5. 5%												
3	1億円を超える金額に対して	4. 5%												

別表第3

1 区分	2 費目	3 細目	4 細 分	5 内 容
事務費	事務費	共済費	社会保険料	この費目から支弁される事務手続のために必要な労務者に対する共済組合（社会保険料）負担金と事業主負担保険料をいい、使途目的、人数、単価及び金額がわかる資料を添付すること。
		賃金		この費目から支弁される事務手続のために必要な労務者に対する給与をいい、雇用目的、内容、人数、単価、日数及び金額がわかる資料を添付すること。
		旅費		この費目から支弁される事務手続のために必要な交通移動に係る経費をいい、目的、人数、単価、回数及び金額がわかる資料を添付すること。
		需用費	印刷製本費	この費目から支弁される事務手続のために必要な設計用紙等印刷、写真焼付及び図面焼増等に係る経費をいう。
		役員費	通信運搬費	この費目から支弁される事務手続のために必要な郵便料等通信費をいう。
		委託料		この費目から支弁される事務手続のために必要な業務の一部を外注する場合に発生する特殊な技能又は資格を必要とする業務に要する経費をいう。
		使用料及 賃借料		この費目から支弁される事務手続のために必要な会議に係る会場使用料（借料）をいい、目的、回数及び金額がわかる資料を添付すること。
		消耗品費 備品購入 費		この費目から支弁される事務手続のために必要な事務用品類、参考図書、現場用作業衣等雑具類の購入のために必要な経費をいい、使途目的、品目、単価、数量及び金額がわかる資料を添付すること。

## 別紙1（第3条関係）

### 補助事業の実施に関する要件その他の必要な事項について

#### 1 対象事業の要件

- (1) 事業場・工場における基準年度排出量が50t-CO<sub>2</sub>以上であること
- (2) 補助事業実施後の事業場・工場の二酸化炭素排出量が、基準年度排出量と比して削減される事業内容であり、排出削減目標量を掲げ、その達成を約す事業であること
- (3) 補助対象設備に、別紙2「環境大臣指定設備・機器等一覧」に掲げる設備・機器に属する製品を少なくとも1つ以上含むこと
- (4) L2-Tech 認証製品の材料費が補助事業で導入する機器の材料費全体に対して50%以上であること
- (5) 運用改善等による排出削減目標量が排出削減目標量全体に対して10%以上であること
- (6) 平成28年度に二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）により機器等を導入した事業場・工場でないこと
- (7) L2-Tech 認証製品を導入したことによるCO<sub>2</sub>削減効果及びランニングコスト削減効果が定量的に把握可能であること

#### 2 補助金の交付を申請できる者

本事業について補助金の交付を申請できる者は、次に掲げる者とする。

- (1) 民間企業
- (2) 独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)第2条第1項に規定する独立行政法人
- (3) 一般社団法人・一般財団法人及び公益社団法人・公益財団法人
- (4) 法律により直接設立された法人
- (5) その他環境大臣の承認を経て協会が認める者

#### 3 維持管理

補助事業により導入した設備等の取得財産は、第8条第十二号及び第十三号の規定に基づき、善良な管理者の注意をもって管理し、補助金の交付の目的に従って、その効率的運用を図ること。また、導入に関する各種法令を遵守すること。

#### 4 その他の細則

補助事業者は、法令及びこの規定の他、環境省が定める「ASSET (Advanced technology promotion Subsidy Scheme with Emission reduction Targets) 第6期実施ルール」及び「ASSET モニタリング報告ガイドライン Ver6.0」（以下、「制度文書」という。）に従わなければならない。なお、制度文書が改訂された場合には、最新のものに従うこと。

#### 5 二酸化炭素削減量の把握及び情報提供

補助事業者は、実施要領第4に定める排出量の算定・排出枠の償却について、この規程、協会及び環境省担当官の求めに応じて、排出量の算定・排出枠の償却の進捗状況や検証を実施する第三者

機関に関する情報、当該機関との契約内容、先導的低炭素機器導入による排出量削減効果等、事業の実施に係る情報を提供すること。

#### 6 補助事業の効果等の報告

補助事業者は、補助事業実施年度から四か年度の間、環境省担当官の求めに応じて補助事業の効果等（エネルギー使用量の増減、補助対象設備の導入費用の内訳、ランニングコストの増減、投資回収見込み等）を環境省又は環境省が指定する者に報告すること。

なお、当該報告結果については原則として、対象事業場・工場の名称及び所在地以外は全て環境省において公表するものとする。

## 環境大臣指定設備・機器等一覧

2016 年度夏版 L2-Tech 認証製品一覧及び 2016 年度冬版 L2-Tech 認証製品一覧のうち、「産業・業務（業種共通）」に掲げる設備・機器等に属する製品を本事業における「L2-Tech 認証製品」とする。

2016 年度夏版 L2-Tech 認証製品一覧 (<http://www.env.go.jp/press/files/jp/103996.pdf> より抜粋)

区 分		設備・機器等
A 産業・ 業務（業 種共通）	空調機（ヒートポンプ・個別方式）	A-01-001 ガスヒートポンプ
		A-01-002 パッケージエアコン(店舗・オフィス用)
		A-01-003 パッケージエアコン(設備用)
		A-01-004 パッケージエアコン(ビル用マルチ)
		A-01-005 氷蓄熱式パッケージエアコン
	熱源・空調機（ヒートポンプ・中央方式）□	A-02-001 ターボ冷凍機
		A-02-002 水冷ヒートポンプチラー
		A-02-003 空冷ヒートポンプチラー
	熱源・空調機（吸収式・中央方式）	A-04-001 吸収冷温水機（二重効用）
		A-04-002 吸収冷温水機（三重効用）/廃熱投入型吸収冷温水機（三重効用）□
		A-04-003 一重二重併用形吸収冷温水機
	熱源・空調機（吸着式・中央方式）	A-05-001 吸着式冷凍機
	熱源（ヒートポンプ）	A-06-001 高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式)
		A-06-002 高温水ヒートポンプ(空気熱源・一過式)
		A-06-003 高温水ヒートポンプ(水熱源・循環式)
		A-06-004 高温水ヒートポンプ(水熱源・一過式)
		A-06-005 高温水ヒートポンプ(水空気熱源・循環式)
		A-06-006 高温水ヒートポンプ(水空気熱源・一過式)
		A-06-007 熱風ヒートポンプ(水熱源・一過/循環式)
		A-06-008 蒸気発生ヒートポンプ(水熱源・一過式)
		A-06-009 蒸気再圧縮装置(その他熱源・循環式)
	給湯器（ヒートポンプ）	A-07-001 ヒートポンプ給湯機(空気熱源・一過式)□
	給湯器（ガス式）	A-08-001 潜熱回収型給湯器
	ボイラ	A-09-001 温水機
		A-09-002 蒸気ボイラ(貫流ボイラ)
		A-09-003 蒸気ボイラ(炉筒煙管ボイラ)
		A-09-004 蒸気ボイラ(水管ボイラ)
		A-09-005 熱媒ボイラ
	コージェネレーション	A-10-001 ガスエンジンコージェネレーション
		A-10-002 ガスタービンコージェネレーション
		A-10-003 燃料電池コージェネレーション
	冷凍冷蔵機器	A-11-001 業務用冷凍冷蔵庫
		A-11-002 空気冷媒方式冷凍機
		A-11-003 冷凍冷蔵倉庫用自然冷媒冷凍機（アンモニア/CO2二次冷媒システム）
	照明器具	A-12-001 LED照明器具
	モータ	A-14-001 誘導モータ
		A-14-002 永久磁石同期モータ
	変圧器	A-15-001 変圧器
	窓	A-16-001 窓ガラス
	エネルギーマネジメントシステム	A-18-001 BEMS（制御サービス・空調・熱源・中央方式）

2016 年度冬版 L2-Tech 認証製品一覧 (http://www.env.go.jp/press/files/jp/105150.pdf  
より抜粋)

技術体系		設備・機器等	リンク
産業・業務 (業種共通)	空調機 (ヒートポンプ・個別方式)	ガスヒートポンプ	<a href="#">〇</a>
		パッケージエアコン(店舗・オフィス用)	<a href="#">〇</a>
		パッケージエアコン(設備用)	<a href="#">〇</a>
		パッケージエアコン(ビル用マルチ)	<a href="#">〇</a>
		氷蓄熱式パッケージエアコン	<a href="#">〇</a>
	熱源・空調機 (ヒートポンプ・中央方式) 〇	フロン類等冷媒ターボ冷凍機	<a href="#">〇</a>
		自然冷媒ターボ冷凍機	<a href="#">〇</a>
		水冷ヒートポンプチャラー	<a href="#">〇</a>
		空冷ヒートポンプチャラー	<a href="#">〇</a>
	熱源・空調機 (吸収式・中央方式)	間接気化式冷却器	<a href="#">〇</a>
		吸収冷温水機 (二重効用)	<a href="#">〇</a>
		吸収冷温水機 (三重効用) / 廃熱投入型吸収冷温水機 (三重効用)	<a href="#">〇</a>
		一重二重併用形吸収冷温水機	<a href="#">〇</a>
		木質ペレット直焚き吸収冷温水機 (二重効用)	<a href="#">〇</a>
	熱源 (ヒートポンプ)	高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式)	<a href="#">〇</a>
		高温水ヒートポンプ(空気熱源・一過式)	<a href="#">〇</a>
		高温水ヒートポンプ(水熱源・循環式)	<a href="#">〇</a>
		高温水ヒートポンプ(水熱源・一過式)	<a href="#">〇</a>
		高温水ヒートポンプ(水空気熱源・循環式)	<a href="#">〇</a>
		高温水ヒートポンプ(水空気熱源・一過式)	<a href="#">〇</a>
		熱風ヒートポンプ(水熱源・一過/循環式)	<a href="#">〇</a>
		蒸気発生ヒートポンプ(水熱源・一過式)	<a href="#">〇</a>
		蒸気再圧縮装置	<a href="#">〇</a>
		給湯器 (ヒートポンプ)	ヒートポンプ給湯機(空気熱源)
	給湯器 (ガス式)	潜熱回収型給湯器	<a href="#">〇</a>
	ボイラ	温水機	<a href="#">〇</a>
		蒸気ボイラ(貫流ボイラ)	<a href="#">〇</a>
		蒸気ボイラ(炉筒煙管ボイラ)	<a href="#">〇</a>
		蒸気ボイラ(水管ボイラ)	<a href="#">〇</a>
		熱媒ボイラ	<a href="#">〇</a>
	コージェネレーション	ガスエンジンコージェネレーション	<a href="#">〇</a>
		ガスタービンコージェネレーション	<a href="#">〇</a>
		燃料電池コージェネレーション	<a href="#">〇</a>
	冷凍冷蔵機器	空気冷媒方式冷凍機	<a href="#">〇</a>
		冷凍冷蔵倉庫用自然冷媒冷凍機 (アンモニア/CO2二次冷媒システム)	<a href="#">〇</a>
	照明器具	LED照明器具	<a href="#">〇</a>
	モータ	誘導モータ	<a href="#">〇</a>
		永久磁石同期モータ	<a href="#">〇</a>
	変圧器	油入変圧器	<a href="#">〇</a>
		モールド変圧器	<a href="#">〇</a>
	モータ利用機器 (圧縮機)	蒸気駆動圧縮機	<a href="#">〇</a>
		熱回収式ねじ容積形圧縮機	<a href="#">〇</a>
窓	Low E複層ガラス(LE3+A12+FL3)	<a href="#">〇</a>	
	三層Low E複層ガラス(LE3+Ar 11+FL3+Ar 11+LE3)	<a href="#">〇</a>	
	真空Low E複層ガラス(LE3+Ar 9+FL3+V0.2+LE3)	<a href="#">〇</a>	
	アタッチメント付きLow E複層ガラス(LE3+Ar 6+FL3 (アタッチメント付き))	<a href="#">〇</a>	
	真空ガラス (LE3 + V0.2+FL3)	<a href="#">〇</a>	
	現場施工型後付けLow E複層ガラス(FL6+A12+LE5)	<a href="#">〇</a>	
	薄型Low E複層ガラス(LE3+K4+FL3)	<a href="#">〇</a>	
洗濯機	業務用ヒートポンプ式衣類洗濯乾燥機	<a href="#">〇</a>	
エネルギーマネジメントシステム	BEMS (制御サービス・空調・熱源・中央方式)	<a href="#">〇</a>	

交付規程様式等

様式第1 交付申請書（第5条関係）

別紙1 整備計画書

別紙2 経費内訳

様式第2 変更交付申請書（第6条関係）

様式第3 交付決定通知書（第7条関係）

様式第4 変更交付決定通知書（第7条関係）

様式第5 計画変更承認申請書（第8条関係）

様式第6 中止（廃止）承認申請書（第8条関係）

様式第7 遅延報告書（第8条関係）

様式第8 遂行状況報告書（第8条関係）

様式第9 消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額報告書（第8条関係）

様式第10 取得財産等管理台帳（第8条関係）

様式第11 完了実績報告書（第11条関係）

別紙1 実施報告書

別紙2 経費所要額精算調書

様式第12 年度終了実績報告書（第11条関係）

様式第13 交付額確定通知書（第12条関係）

様式第14 精算払請求書（第13条関係）

GAJ 事業番号：

平成 年 月 日

一般社団法人温室効果ガス審査協会  
代表理事 殿

申請者 住 所  
氏名又は名称  
法人番号  
代表者の職・氏名

印

平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）  
交付申請書

平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）交付規程（以下「交付規程」という。）第5条の規定により上記補助金の交付について下記のとおり申請します。

なお、交付決定を受けて補助事業を実施する際には、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号）及び交付規程の定めるところに従います。

記

- 1 補助事業の目的及び内容  
別紙1 整備計画書のとおり
- 2 補助金交付申請額 円  
(うち消費税及び地方消費税相当額 円)
- 3 補助事業に要する経費  
別紙2 経費内訳のとおり
- 4 補助事業の開始及び完了予定年月日  
交付決定の日 ~ 平成 年 月 日
- 5 その他参考資料



- 注1 規程第3条第3項の規定に基づき共同で申請する場合は、代表事業者が申請すること。
- 2 「5 その他参考資料」として、申請者の組織概要、経理状況説明書（直近の2決算期に関する貸借対照表及び損益計算書（申請時に、法人の設立から1会計年度を経過していない場合には、申請年度の事業計画及び収支予算、法人の設立から1会計年度を経過し、かつ、2会計年度を経過していない場合には、直近の1決算期に関する貸借対照表及び損益計算書））及び定款を添付すること（申請者が、法律に基づき設立の認可等を行う行政機関から、その認可等を受け、又は当該行政機関の合議制の機関における設立の認可等が適当である旨の文書を受領している者である場合は、設立の認可等を受け、又は設立の認可等が適当であるとされた法人の事業計画及び収支予算の案並びに定款の案を添付すること。ただし、これらの案が作成されていない場合には、添付を要しない。）。
  - 3 別紙1又は別紙2において事業ごとに求めている設備等のシステム図・配置図・仕様書、補助事業に関する見積書・各種計算書、法律に基づく登録に係る通知の写し等を添付すること。

GAJ 事業番号：

平成 年 月 日

一般社団法人温室効果ガス審査協会  
代表理事 殿

補助事業者 住 所  
氏名又は名称  
法人番号  
代表者の職・氏名

印

平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金  
(先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業)  
変更交付申請書

平成 年 月 日付け 第 号で交付決定の通知を受けた二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）を下記のとおり変更したいので、平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）交付規程（以下「交付規程」という。）第6条の規定により関係書類を添えて申請します。

なお、変更交付決定を受けて補助事業を実施する際には、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号）及び交付規程の定めるところに従います。

記

1 補助変更申請額

2 変更内容

3 変更理由

（注）具体的に記載する。

注1 規程第3条第3項の規定に基づき共同で交付申請した場合は、代表事業者が申請すること。

2 1の金額欄の上部に（ ）書きで当初交付決定額を記載する。

- 3 添付書類は、様式第1のそれぞれに準じて変更部分について作成することとし、別紙2については、変更前の金額を上段に（ ）書きし、変更後の金額を下段に記載すること。

様式第3（第7条関係）

番 号

平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）交付決定通知書

補助事業者  
（実施場所： ）

平成 年 月 日付け（GAJ 事業番号：117XXXX）で交付申請のあった平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）については、平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）交付規程（平成29年4月17日 温審協A第170417001号。以下「交付規程」という。）第7条第1項の規定により、下記のとおり交付することを決定したので、通知する。

平成 年 月 日

一般社団法人温室効果ガス審査協会 代表理事 印

記

- 1 補助金の交付の対象となる事業及びその内容は、平成 年 月 日付け（GAJ 事業番号：117XXXX）交付申請書のとおりである。
- 2 補助基本額及び補助金の額は次のとおりである。ただし、事業の内容を変更する場合において、補助基本額又は補助金の額が変更されるときは、別に通知するところによる。  
補助基本額 金 円 補助金の額 金 円
- 3 事業に要する経費の区分ごとの配分及びこれに対応する補助金の額は、平成 年 月 日付け（GAJ 事業番号：117XXXX）交付申請書記載のとおりである。
- 4 事業内容の変更等特段の事情がない限り、交付を行う補助金の額は、この交付決定額を上限とする。
- 5 補助事業者は、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号）、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）交付要綱（平成26年4月1日環地温発第1404017号）、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）実施要領（平成26年4月1日環地温発第1404018号）及び交付規程に従わなければならない。
- 6 この交付決定に対し不服があるとき、申請の取り下げをすることのできる期限は平成 年 月 日とする。

- 7 補助事業における仕入れに係る消費税等については、交付規程第4条第2項ただし書の定めるところにより算定されている場合は、補助金の額の確定又は消費税の申告後において精算減額又は返還を行うこととする。

様式第4（第7条関係）

番 号

平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）変更交付決定通知書

補助事業者  
（実施場所： ）

平成 年 月 日付け（GAJ 事業番号：117XXXX）で変更交付申請のあった平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）については、平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）交付規程（平成29年4月17日 温審協A第170417001号。以下「交付規程」という。）第7条第1項の規定により、平成 年 月 日付け 第 号で交付決定した内容を下記のとおり変更することを決定したので通知する。

平成 年 月 日

一般社団法人温室効果ガス審査協会 代表理事 印

記

- 1 補助金の交付の対象となる事業及びその内容は、平成 年 月 日付け（GAJ 事業番号：117XXXX）変更交付申請書のとおりである。
- 2 変更後の補助金の額は、次のとおりである。

変更前補助基本額 金	円	変更前補助金の額 金	円
変更後補助基本額 金	円	変更後補助金の額 金	円
増 減 額 金	円	増 減 額 金	円
- 3 事業に要する経費の区分ごとの配分及びこれに対応する変更後の補助金の額は、平成 年 月 日付け（GAJ 事業番号：117XXXX）変更交付申請書記載のとおりである。
- 4 補助事業者は、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号）、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）交付要綱（平成26年4月1日環地温発第1404017号）、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）実施要領（平成26年4月1日環地温発第1404018号）及び交付規程に従わなければならない。
- 5 この交付決定に対し不服があるとき、申請の取り下げをすることのできる期限は平成 年 月 日とする。
- 6 補助事業における仕入れに係る消費税等については、交付規程第4条第2項ただし書の定めるところ

ろにより算定されている場合は、補助金の額の確定又は消費税の申告後において精算減額又は返還を行うこととする。

様式第5（第8条関係）

GAJ 事業番号：

平成 年 月 日

一般社団法人温室効果ガス審査協会

代表理事 殿

補助事業者 住 所

氏名又は名称

法人番号

代表者の職・氏名

印

平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）  
計画変更承認申請書

平成 年 月 日付け 第 号で交付決定の通知を受けた二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）の計画を下記のとおり変更したいので、平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）交付規程（以下「交付規程」という。）第8条第三号の規定により関係書類を添えて申請します。

なお、計画変更の承認を受けて補助事業を実施する際には、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号）及び交付規程の定めるところに従います。

記

- 1 変更の内容
- 2 変更を必要とする理由
- 3 変更が補助事業に及ぼす影響

注1 規程第3条第3項の規定に基づき共同で交付申請した場合は、代表事業者が申請すること。



- 2 事業の内容を変更する場合にあっては、様式第1の別紙1に変更後の内容を記載して添付すること。
- 3 経費の配分を変更する場合にあっては、様式第1の別紙2に変更前の金額を上段に（ ）書きし、変更後の金額を下段に記載して添付すること。
- 4 事業内容の変更は、取得価格又は効用の増加予定価格が、単価50万円以上の機械及び器具又は50万円未満の交付規程別紙2「環境大臣指定設備・機器等一覧」に掲げる機器のメーカー、数量又は型番の変更を含むこととする。

様式第6（第8条関係）

GAJ 事業番号：

平成 年 月 日

一般社団法人温室効果ガス審査協会  
代表理事 殿

補助事業者 住 所  
氏名又は名称  
法人番号  
代表者の職・氏名

印

平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）  
中止（廃止）承認申請書

平成 年 月 日付け 第 号で交付決定の通知を受けた二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）を下記のとおり中止（廃止）したいので、平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）交付規程第8条第四号の規定により関係書類を添えて申請します。

記

- 1 中止（廃止）を必要とする理由
- 2 中止（廃止）の予定年月日
- 3 中止（廃止）までに実施した事業内容
- 4 中止（廃止）が補助事業に及ぼす影響
- 5 中止（廃止）後の措置

注1 規程第3条第3項の規定に基づき共同で交付申請した場合は、代表事業者が申請すること。

- 2 中止（廃止）までに実施した事業の内容については、様式第1の別紙1を使用し記載するとともに、様式第1の別紙2に交付決定額を上段に（ ）書きし、中止（廃止）時の実施見込額を下段に記載した書類を添付すること。

様式第7（第8条関係）

GAJ 事業番号：

平成 年 月 日

一般社団法人温室効果ガス審査協会  
代表理事 殿

補助事業者 住 所  
氏名又は名称  
法人番号  
代表者の職・氏名 印

平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）  
遅延報告書

平成 年 月 日付け 第 号で交付決定の通知を受けた二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）の遅延について、平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）交付規程第8条第五号の規定により下記のとおり指示を求めます。

記

- 1 遅延の原因及び内容
- 2 遅延に係る金額
- 3 遅延に対して採った措置
- 4 遅延等が補助事業に及ぼす影響
- 5 補助事業の実施予定及び完了予定年月日

注1 規程第3条第3項の規定に基づき共同で交付申請した場合は、代表事業者が報告すること。

2 事業の進捗状況を示した工程表を、当初と変更後を対比できるように作成し添付すること。

様式第8（第8条関係）

GAJ 事業番号：

平成 年 月 日

一般社団法人温室効果ガス審査協会

代表理事 殿

補助事業者 住 所

氏名又は名称

法人番号

代表者の職・氏名

印

平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金  
(先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業)  
遂行状況報告書

平成 年 月 日付け 第 号で交付決定の通知を受けた二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）の遂行状況について、平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）交付規程第8条第六号の規定により下記のとおり報告します。

記

経費の区分	交付決定額(円)	実施額(円)	遂行状況
計			

注 規程第3条第3項の規定に基づき共同で交付申請した場合は、代表事業者が報告すること。

様式第9(第8条関係)

GAJ 事業番号：

平成 年 月 日

一般社団法人温室効果ガス審査協会  
代表理事 殿

補助事業者 住 所  
氏名又は名称  
法人番号  
代表者の職・氏名

印

平成29年度消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額報告書

平成 年 月 日付け 第 号で交付決定の通知を受けた二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）について、平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）交付規程第8条第十号の規定に基づき下記のとおり報告します。

記

1 補助金額（規程第12条第1項による額の確定額）

金 円

2 消費税及び地方消費税の申告により確定した消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額

金 円

注1 規程第3条第3項の規定に基づき共同で交付申請した場合は、代表事業者が報告すること。

2 別紙として積算の内容を添付すること。

様式第10(第8条関係)

二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業)取得財産等管理台帳(GAJ事業番号:117XXXX)  
(平成29年度)

財産名 (備品等名)	仕様	数量	単価 (円)	金額 (円)	取得 年月日	耐用 年数	設置又は 保管場所

注1 対象となる取得財産等は、取得価格又は効用の増加価格が二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業)交付規程第8条第十三号に規定する処分制限額以上の財産とする。

2 数量は、同一仕様等であれば一括して記載して差し支えない。単価が異なる場合は、分割して記載すること。

3 取得年月日は、検収年月日を記載すること。

様式第 1 1 (第 1 1 条関係)

GAJ 事業番号:

平成 年 月 日

一般社団法人温室効果ガス審査協会  
代表理事 殿

補助事業者 住 所  
氏名又は名称  
法人番号  
代表者の職・氏名

印

平成 2 9 年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金 (先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業)  
完了実績報告書

平成 年 月 日付け 第 号で交付決定の通知を受けた二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金 (先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業) を完了 (中止・廃止) しましたので、平成 2 9 年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金 (先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業) 交付規程第 1 1 条第 1 項の規定に基づき下記のとおり報告します。

記

- 1 補助金の交付決定額及び交付決定年月日  
金 円 (平成 年 月 日 番号)  
(うち消費税及び地方消費税相当額 円)
- 2 補助事業の実施状況  
別紙 1 実施報告書のとおり
- 3 補助金の経費収支実績  
別紙 2 経費所要額精算調書のとおり
- 4 補助事業の実施期間  
交付決定の日 ~平成 年 月 日
- 5 添付資料  
(1) 完成図書 (各種手続等に係る書面の写しを含む。)  
(2) 写真 (工程等が分かるもの)  
(3) その他参考資料 (領収書等含む。)

注 規程第3条第3項の規定に基づき共同で交付申請した場合は、代表事業者が報告すること。



様式第12（第11条関係）

GAJ 事業番号：  
平成 年 月 日

一般社団法人温室効果ガス審査協会  
代表理事 殿

補助事業者 住 所  
氏名又は名称  
法人番号  
代表者の職・氏名 印

平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）  
年度終了実績報告書

平成 年 月 日付け 第 号で交付決定の通知を受けた二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）の平成29年度における実績について、平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）交付規程第11条第2項の規定に基づき下記のとおり報告します。

#### 記

- 1 補助金の交付決定額及び交付決定年月日  
金 円（平成 年 月 日 番号）  
（うち消費税及び地方消費税相当額 円）
- 2 補助事業の実施状況
- \* 交付規程第8条第五号の規定に基づき協会の指示を受けた場合は、翌会計年度に行う補助事業に関する計画を含む。
- 3 補助金の経費所要額実績  
別紙のとおり

## 経費所要額実績

(単位：円)

交付決定の内容		年度内遂行実績		翌年度繰越額	
(1)補助事業に 要する経費	(2)交付決定額	(3)事業費 支払実績額	(4)補助金 受入額	(5)補助事業に 要する経費  (1) - (3)	(6)補助金 所要額  (2) - (4)

平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金  
(先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業)  
交付額確定通知書

補助事業者  
(実施場所： )

平成 年 月 日付け 第 号で交付決定した二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）については、平成 年 月 日付け（GAJ 事業番号：117XXXX）の完了実績報告書に基づき、下記のとおり交付額を確定したので、平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）交付規程（平成29年4月17日付け 温審協A第170417001号。以下「交付規程」という。）第12条第1項の規定により通知する。

記

確 定 額 金 円

平成 年 月 日

一般社団法人温室効果ガス審査協会  
代表理事

(超過交付額が生じた場合)

なお、超過交付となった金 円については、交付規程第12条第2項及び第3項の規定により平成 年 月 日までに返還することを命ずる。

様式第14 (第13条関係)

GAJ 事業番号  
平成 年 月 日

一般社団法人温室効果ガス審査協会  
代表理事 殿

補助事業者 住 所  
氏名又は名称  
法人番号  
代表者の職・氏名 印

平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）  
精算払請求書

平成 年 月 日付け 第 号で交付額確定の通知を受けた二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）の精算払を受けたいので、平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業）交付規程第13条第2項の規定に基づき下記のとおり請求します。

記

- 1 請求金額 金 円
- 2 振込先の金融機関、その支店名、預金の種別、口座番号及び名義

注 規程第3条第3項の規定に基づき共同で交付申請した場合は、代表事業者が請求すること。